**第２学年Ｂ組　保健体育科学習指導案**

指導者　井口　結

１　単　元　　傷害の防止

　　題　材　　交通事故の現状と原因

２　単元（題材）について

(1)　現在の日本において、中学生の交通事故での傷害が多いこと（特に自転車乗用中）、予想の難しい気象の急

変やそれに伴う自然災害が起きやすいことなど身の回りにおける危険な場面が増加していると考えられる。

本単元では、交通事故や自然災害などによる傷害は人的要因、環境要因が相互に関わりをもって引き起こさ

れることを理解するととも、適切な対策をとることでそれらを防止することができることを理解する。また、

傷害を負った時の迅速かつ的確な応急手当は悪化の防止につながることを知り、実生活の中で生かすことで

自他の健康の保持増進につながる。生活の中に潜む危険について考え、実生活を振り返ることのできる題材

である。

(2)　本学級の生徒は、男女ともに反応が良く、教師の問いかけに対して発言を返す生徒が多い。日常生活では

男子生徒は元気がよく、活動中に周囲への意識が散漫になり、ヒヤリハットの場面が多く見られる。自転車

の使用については、登下校で使用したり、休日の移動手段で使ったりするなど日常の中で使用する機会が多

い。しかし、交通に関するマナーやルールに関する意識は低く、危険な運転をする生徒も少なくない。自分

が被害者になることを防ぐだけでなく、加害者にならないためにも本単元の理解を深めることが必要である。

(3)　生徒自身が自分事として考えられるようにするために、中学生にとって交通事故は身近な問題であり、さ

らに自転車乗車時には高い確率で事故に遭っていることをおさえる。また、事故が起きる主な要因について

人的要因、環境要因、車両要因について学び、事故を防ぐために３つの要因について意識する必要があるこ

とを理解できるようにする。

交通事故の起こり方を理解した後に、場面ごとの危険予測を班ごとに行う。３つの要因について、危険性

を含んだ場面を想定し、その場面の中で自分なら何に注意するか考え、実生活で同じ様な場面に遭遇した際

に自身や他者を守ることができるようにする。また、個人だけで考えるのではなく、班員と協力して考えを

出し合ったり、他の班の場面ごとの危険予測を共有したりすることで様々な場面について対応できるように

し、理解を深める。そして、今後の実生活における交通事故を防止できるようにする。

３　目　標（３観点）

(1)　傷害の防止のために、人的要因や環境要因に関わる危険を予測し、それぞれの要因に対して適切な対策が

必要であることを理解できる。（知・技）

(2)　傷害の防止に関わる事象や情報から課題を発見し、自他の危険の予測をもとに、危険を回避したり、生涯

の悪化を防止したりする方法を考えることができる。（思・判・表）

(3)　傷害の防止に関する対策について関心をもち、自他の健康の保持増進のために、実生活の中で生かすため

の方法を模索しようとしている。（主）

４　学習指導計画

(1)　傷害の原因と防止・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

(2)　交通事故の現状と原因・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間（本時）

(3)　交通事故の防止・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

(4)　犯罪被害の防止・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

 (5)　自然災害に備えて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

 (6)　応急手当の意義と基本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２時間

(7)　きずの手当・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１時間

５　本時の学習指導

(1)　目標と評価

|  |  |
| --- | --- |
| 目標 | 人的要因、環境要因、車両要因をもとに場面に合わせた危険予測を立てることができる。（思・判・表） |
| Ａ | Ｂ | Ｃの生徒への支援・指導 |
| いずれかの要因について場面にあった危険予測を立て、周囲の友達に伝えることができる。 | いずれかの要因を発見し、場面に合わせた危険予測を立てている。 | 机間指導を行い、見るべきポイントについて助言することで、潜んでいる危険について気付けるようにする。 |

(2)　準備物　　ワークシート

(3)　授業のポイント

３つの要因をもとに自分なりの考えを導き出したのちに、班ごとで考えを共有することで、班員の意見に

共感したり、自分の考えをより深めたりできるようにする。（自己存在感の感受／共感的な人間関係の育成

／自己決定の場の提供）。

(4)　学習指導過程　　(存)…自己存在感の感受、(共)…共感的な人間関係の育成、(決)…自己決定の場の提供

|  |  |
| --- | --- |
| 学習内容及び学習活動 | ・教師の指導・支援及び評価(存／共／決）教育相談の視点に立った支援 |
| １　前時の復習をもとに、本時のめあての確認をする。事故の要因をもとに、様々な場面での危険予測ができるようになろう２　中学生の交通事故の特徴について確認する。1. 自転車乗用中の事故が多いことを理解する。

３　事故の要因をもとに場面ごとの危険予測を行う。1. 班ごとにそれぞれが考えた危険予測について意見を出し合う。
2. 自分の思いつかなかった意見については赤色でメモをとる。
3. 班ごとの考えを発表し、学級内で共有する。

４　事故が起こる要因について確認する。1. 人的要因について
2. 環境要因について
3. 車両要因について

６　本時の振り返りを行う。 | ・中学生の傷害における大きな割合を交通事故が占めていることを再確認し、本時の課題を意識できるようにするために、前時の復習をする。・生徒の書く負担を減らすために、穴抜きのワークシートへ必要事項を記入するように促す。・自転車乗用中のヒヤリハット経験について質問をすることで、実生活に根付いた学習内容であることを意識できるようにする。それぞれの場面において、いずれかの要因をもとに危険予測を立てることができている。（思・判・表）(自)班長を中心に全員が発表をできるように指示することでそれぞれが考えた意見が反映されるようにする。・自分の考えと班員の考えを区別するために、他の生徒の考えについて赤色でメモをとるように指示する。(共)多くの場面を共有し、実生活の中で活かせるようにするために、各班の課題となった場面とその危険予測について発表する。・教科書のイラスト資料と比較しながら説明をすることで視覚的なイメージをもって理解できるようにする。・危険予測を行ったイラストをもとにしつつ、要因について補足説明をすることで、理解を深める。・実生活の中で交通事故を防止する意識を高めるために、現在の自分の行動や身近な環境に焦点を当てて振り返りを行う。 |